

# ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター～

会報～  
vol. 24

平成30（2018）年5月16日

## 『はばたけ荘』再開のお知らせ

私たちは、虐待や育児放棄など様々な事情から居場所をなくし困難を抱えた、概ね14歳から20歳未満の子どもたちの居場所を提供する活動などを行っており、その一環として2014年9月1日から男子の自立援助ホーム『はばたけ荘』の運営をスタートし、女子のための子どもシェルター「ピピオの家」の運営と合わせ、活動を進めてきました。ところが、『はばたけ荘』は、常勤スタッフの確保が難しかったことから2017年5月12日に休止せざるをえない状況となっており、鋭意、新たな常勤スタッフを探しておりました。

そして、本年に入り新たなスタッフもみつかり、「はばたけ荘」は2018年3月15日から再開するはこびとなりました。休止していた間も何件かの入居の相談を受けておりましたが、「はばたけ荘」再開後も既に2名の子が入居してきており、改めて私たちの取り組みの必要性を実感している次

第であります。

私たちは、『はばたけ荘』を休止している間に、施設の体制の在り方やスタッフと担当理事、子ども担当弁護士との役割分担などについて検討してまいりましたが、今後も安定した運営が継続できるよう改善すべきは改善していきたいと考えております。

これからも居場所のない子らに寄り添い、その子の自立を支援していく取り組みを進め、またその取り組みから見えてくる子どもらを取り巻く問題に対し、関係諸機関や子どもの問題に取り組む多くの団体との連携をはかり、そのような問題に対し共々に取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後とも、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

ピピオ子どもセンター理事長 鶴野 一郎

## 2018 こどもの日記念シンポジウムのご報告

4月29日に広島市青少年センターで、ピピオ子どもセンターが後援する、広島弁護士会主催のこどもの日記念シンポジウムが開催され、「デートDVから対等な関係づくりを考える～それって本当に愛ですか」をテーマとして、演劇「はばたけピピオ！パート9～ひなぼとにラブソングを～」が上演されました。

今年は、はばたけピピオ！シリーズに欠かせない看板役者だった戸田慶吾理事がいなくなって、初めてのピピオでした。私だけでなく、参加者それぞれが、戸田理事への様々な思いを胸に練習・

準備に励み、本番を迎えました。

第1部では、初めての彼氏からのデートDV（束縛、お金を取られる、バカにされる、行動を制限されるなど）に苦しむ女子高生が主役でした。DVの「息苦しさ」に主人公がだんだん追い詰められていく様子などが伝わり、デートDVについて皆さんに理解していただけることができましたと思います。

第2部では、劇に関わった高校生の皆さんから、劇を通じて知ったデートDVについての意識、そして、その背景について高校生が考えたことなど

が聞けました。大人が聞いてもハッとするくらい、いろいろな角度から考えられた意見が飛び交っていました。

全体を通じて、胸が熱くなるような素晴らしいシンポジウムになったと思います。

来年は、記念すべき10年目を迎えます。

ピピオの立ち上げに際し、演劇はとても力をくれました。立ち上げることには産みのエネルギーが必要ですが、続けていくことには、また違う種類のエネルギーが必要です。これからもたくさんの人の力によって支えられながら、みんなでピピ

オを続けていきたいです。戸田先生、これからも、しっかりと見守っててください。

弁護士 寺西 環江



## 会員の皆様へのご挨拶 上野 和子

ピピオ子どもセンターは、設立から8年目を迎えました。多くの皆様のご支援ご協力を頂き、行き場を無くした子どもたちに寄り添い続けています。また、昨年5月からお休みしていました自立援助ホーム「はばたけ荘」も3月より再開しています。

改めて、心より感謝申し上げます。

過日4月29日には、広島弁護士会主催で「子どもの日記念シンポジウム」が開催され、高校生、弁護士先生の迫真の創作劇を鑑賞し、高校生たちの生の声を聴くことができました。

第2部の高校生の言葉の中に、「帰る場所がある」「ゆっくりでいいよと言って支えてくれる人」「分かってくれる人」つまり「居場所」があれば、相談し、元気になれる。といった言葉がありました。

私たちは、一人では暮らしていけません。人間同士のつながりの中で、生かされています。私は、世の中に自分が安心できる人が、一人いればよいと考えています。もちろん、たくさんいればよいのですが、まずは、一人の安心できる人の存在が、生きる力になると信じています。ピピオ、はばたけ荘に入所する子どもたちは、暮らしの中

で、少なからぬ、身近に信頼できる人がいない中での暮らしを余儀なくされてきた子どもたちです。ピピオ、はばたけ荘で、初めて「自分」を安心して出せる大人に出会い、疲れた気持ちを癒し、次のステップへと旅立っていきます。

ゴールデンウィークのさなか、アイドルグループTOKIOのメンバーの一人が、強制わいせつ容疑で書類送検され、不起訴となる起訴猶予処分となった。という報道がありました。被害に遭ったのは、女子高生とのこと。被害の詳細はわかりませんが、性被害に遭ったことは事実です。彼女がどれだけ深く傷つき、苦しむであろうことを想像するにつけ、彼女の信頼を裏切った大人の行為に憤りを覚えると同時に、とても残念な気持ちになりました。

チャイルドラインにも、「大人は信頼できない」「大人が自分のことをわかってくれない」という声を受話器の向こうから届きます。あるときには、泣きながら、またあるときには、淡々と私達に訴えてきます。彼らの気持ちを大人として真摯に受け止める毎日です。

残念ながら、私達が知らないところで、つらく

苦しい思いをしている子どもたちの存在が、無いとは言えません。昨年急逝されました戸田弁護士の遺志をしっかり受け継ぐべく、広島の子どもの心の支えであり、「安心できる居場所」にな

れるよう、一層のエネルギーを注ぎ、ピピオ子どもセンターが存在し続けることに意味があることを再確認し、決意を新たにしています。

引き続き、どうぞよろしく願いいたします。

ピピオ子どもセンター理事 上野 和子

## 第9回ボランティアスタッフ養成講座のご案内

本年6月6日から7月25日にかけて第9回ボランティアスタッフ養成講座を開催します。

当センターでは、子どもシェルター「ピピオの家」と自立援助ホーム「はばたけ荘」の運営にあたり、多数のボランティアスタッフの皆さまにお手伝いいただいております。本年度も新たなボランティアスタッフを募集したいと考えています。ボランティアスタッフに応募される方にはこの養成講座（全8講）を受講していただくこととさせていただきますので、別紙の募集案内をご覧ください。

また、この講座は、公益財団法人マツダ財団との共同事業であるスタートラインプロジェクトの一環として開催しており、現在ボランティアスタッフや子ども担当弁護士として関わっている方のスキルアップも目的とし、さらには広島近隣の大学等で福祉・教育・心理等を学ぶ学生の方など、子どもの問題に関心のある方にも参加を呼びかけています。

多くの方のご参加を希望しておりますので、よろしく願いいたします。

## スタッフ通信

はばたけ荘のスタッフHです。

早いものでははばたけ荘が開設して、早や4年になろうとしています。

平成26年10月24日、少年と理事、子担弁護士、スタッフが出合い第1号としてはばたけ荘に入居しました。そこから主として男だけの生活が始まり、拙い食事に付き合ってもらいながら、心を触れ合わせ、たまには口喧嘩しながらも、最大で5人まで増えるも、どうにか運営してきたのでした。

勤務員の退職に伴い、平成29年5月12日をもって一時運営休止となりましたが、延べ9人がはばたけ荘を巣立って行きました。

この間長い人で2年半、短くても半年、ここで羽を休め、新しい旅立ちへのエネルギーを充電し、はばたいたのです。

休止の間の私は、部屋の掃除や、庭の草取りに精を出し再開を待っていましたが、1年近い休止の後、今年の2月に新しいスタッフを迎えることが出来、3月にやっと再開の運びとなったのです。

休止の間、テレビや新聞等の報道を見ても相変わらず、育児放棄や虐待等が未だに数多く発生していることに愕然としています。

再開を喜んでよいものかどうか微妙な気持ちではありましたが、やはり行き場のない少年が入居となり、再開できて良かったと思っています。

今思えば、ここに入居した当時高校生だった3人は無事高校を卒業し、新しい世界へと旅立つことが出来、良かったなーと思っています。

人と人との出会い、触れ合いを大事にしながらこれからも頑張っていきたいとは思っていますが、先日私は妻にこんなことを言われました。

「お父さん、最近優しくなったね。」

この言葉を聞いた私は、恥ずかしいのと、嬉しいのと、

「自分が今までそんなに厳しかったのかなー。」

と、反省しながら、これからもそうして行こうと思う今日この頃です。

## ～共同募金・社会課題解決プロジェクトへのご協力ありがとうございました～

ひなばと vol.23号でご案内しました平成30年1月から3月末日までに行われた広島県共同募金会による社会課題解決プロジェクトに対し、多数の方々にご協力頂きました。実に138件もの方々(個人・団体・有志等)から募金を頂戴し、期間中の合計募金額は、128万4796円となり、広島県共同募金会を通じて、158万4796円の交付金を頂くことになりました。当センターとして、募金額の合計が100万円を超えることが続いており、募金件数も年を追うごとに増加しております。

今年は、特に街頭募金での募金額が過去最高となり、地道な募金活動の必要性を改めて感じる事ができました。このような結果は、市民の方のピピオの活動に対する大きな期待を感じる結果となりました。

この募金は、「ピピオの家」、「はばたけ荘」に入居する子どもたちの自立に向け、有効に使わせていただきます。この場をお借りして、御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

### ピピオ掲示板

#### 生活用品を募集しています

ピピオ子どもセンターでは、「ピピオの家」・「はばたけ荘」から巣立って一人暮らしをする子どもたちへ、家電製品や家具などの生活用品を提供しています。特に、購入すれば負担が大きい冷蔵庫・洗濯機・電子レンジや、組立式のベッド、3段ボックスのような収納家具、タオルなどは大変役立っています。(家電品は製造から5年程度まで)

お手元にあります、使われていない生活用品をご提供頂ければ幸いです。

#### 寄付等のご協力ありがとうございました

世良様、寺本様、新田様、田村様、片岡様など多くの方々から寄付(金銭、生活用品等)を頂いております。日々子どもたちの生活や、より充実した自立支援のために活用させていただきます。この場で御礼申し上げます。

#### ○平成30年4月末日時点の会員数○

正会員 個人:93名 団体:7団体  
賛助会員 個人:72名 団体:2団体

#### 事務局雑記

- 4月・5月は、前年度の締め～新年度の始めの準備など事務的にいろいろな作業があります。ピピオの事務担当となって6年目となり、やるべきことはわかっているのですが、うっかりもあり、歳のせいにして乗り切っている今日この頃です。
- 昨年のはばたけ荘休止前は、退居する子やスタッフのシフトのサポートなどに関わっていました。ちょうど1年前、休止としたときはとても辛かったことが思い出されますが、再開して新年度を迎えることができ、本当に良かったです。今後とも皆様のご支援をお願いいたします。

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局  
〒730-0014 広島市中区上幟町2番36号 S・ウィングビル505号  
TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659  
ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>